

特集―好きな作品を選び、自ら取り組もう

課題をもとに

学習コースを選択

―一年を例に―



新潟市立上山中学校教諭

うえの
上野

まさひろ
昌弘

1 主体的に学習するための目的意識がもてるような
単元構成と支援を

「好きな作品を選び、自ら取り組もう」は、学年のまとめにあたる学習の場である。したがって、まずは、生徒自身が、一年間の学習を振り返り、自分なりの学習の成果や問題点を自覚できるようにすることが必要である。そして、それらを意識しながら、実際に自分で、この二つの文章にあたり、どれくらい読めるのか、どれくらい書けるのかについて、おおまかな見当をつける必要がある。

教師はそうした生徒の「自己評価」を基に、個々の生徒のそれまでのみとりを参考に、基本となる補充・発展の学習コースを設定し、個々の生徒への選択のための助

・これからどんな力をつけたいと思うか。どんな学習をやってみたいと思うか。

3 今の自分の力を確かめる場面（一時間）

生徒の主観的な国語の力と客観的な国語の力、教師が望んでいる国語の力にはずれがある。このずれを生徒、教師ともに確認する必要がある。

そこで、「少年の日の思い出」、「ちよつと立ち止まって」のいずれか、または、両方を読み、簡単な設問に答えながら、自分の今ある力を確かめる場面を設定する。ここで使用する「内容確認シート」には、漢字、語句、文法の問題、基礎的な読み取りの問題、筆者、作者や登場人物への質問や意見を書く問題、仲間にその文章の魅力を伝えるスピーチをする設定で、どんな内容をどんな工夫をして行つかなど、三十分程度で回答できるものを目安として作成する。また、それぞれの作品を読み取る鍵になる部分を出題の中に含ませると、のちのコース別学習につながる問題意識をもちやすい。

答え合わせでは、設問と国語の力の関係を確かめつつ、漢字の読み方、語句の意味、基本的な構成やあらすじなどを確認する。また、仲間の疑問や意見、感想などを聞き、課題意識をもてるようにする。

言を用意しておく。

さらに、生徒が選択、設定した学習課題や学習活動について、学習計画を立てる段階で、全体の学習状況を踏まえて、支援プリントやヒントを出すなどの支援も必要である。学習活動は、個人の場合、グループの場合があるが、いずれにせよ限られた時間であるので、しっかりと見通し、個々の生徒の能力に応じた学習計画になるようにしていきたい。支援が的確に行えるかどうかはその生徒を教師が一年間通じてどうみとったかが試される場面でもある。

2 一年間の国語学習を振り返る場面

一年間にやった教材、学習の一覧表を生徒に配布し、その学習で印象に残っていること、学習したこと、身についたと思う力を振り返る場面を設定する。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「漢字・語句・文法」などおおまかな学習のジャンルを示したり、中心となった学習活動などを提示してもよい。

一年前と比べて、自分の国語の力はどう変わったかなど自己評価を書かせてみる。生徒の国語の学力観が見えてくる。

・この一年間の国語の授業でどんな力がついたと思うか。
・自分の得意なこと、あまり得意ではないこと。

▲内容確認シート例「少年の日の思い出」

4 課題の設定…自分の目的にあった学習を選択、工夫する（一時間）

自分に適した課題を選択、設定できるかが、この学習で最も大切なポイントである。好きな作品を好きな方法で学習するのは、その生徒にとって価値ある学習が保障されるとは限らない。自分が補いたい力、伸ばしたい力は何か、また、これらの作品をどう読み深めたいかなど、生徒の実態を踏まえ、効果的な学習の仕方を示す必要がある。例えば、次ページの下の方のように、教師がモデルとなる学習課題を提示し、その活動の概要やそこで必要な力、困難点などもあらかじめ説明するとよい。

また、そのバリエーションとしての活動もいくつか紹介し、生徒が、自分の学習の目的に応じた活動を選択したり、自分で構成したりできるように配慮する必要がある。その時、なぜ、その課題を設定したか、その学習を通してどんな力をつけたいのかという生徒自身の学習の目的も記述できるようにする左のようなシートを用意すると、学習の目的を自覚することができる。

▲コース選択シート

自分にとってコースを選ぶ、国語の力を伸ばそう。一年組 番 名前

内容確認シートをやってみて、自分の選んだ作品の書はいたいわかったでしょうか？ 自分がよくわからないところはわかりましたか？

これまでの国語の授業の振り返りを書いて、「コース別学習の目的 内容を考えよう」

「あなたは、どんな国語の力を伸ばしたり、伸ばしたりしたいですか？」

二 内容確認シートをよくわからなかったところを「どうするか？」

三 この文書で、あなたは、どんな学習がしてみたいですか？

四 一 次 二 次 三 次 四 次 五 次 六 次 七 次 八 次 九 次 十 次 十一 次 十二 次 十三 次 十四 次 十五 次 十六 次 十七 次 十八 次 十九 次 二十 次 二十一 次 二十二 次 二十三 次 二十四 次 二十五 次 二十六 次 二十七 次 二十八 次 二十九 次 三十 次 三十一 次 三十二 次 三十三 次 三十四 次 三十五 次 三十六 次 三十七 次 三十八 次 三十九 次 四十 次 四十一 次 四十二 次 四十三 次 四十四 次 四十五 次 四十六 次 四十七 次 四十八 次 四十九 次 五十 次 五十一 次 五十二 次 五十三 次 五十四 次 五十五 次 五十六 次 五十七 次 五十八 次 五十九 次 六十 次 六十一 次 六十二 次 六十三 次 六十四 次 六十五 次 六十六 次 六十七 次 六十八 次 六十九 次 七十 次 七十一 次 七十二 次 七十三 次 七十四 次 七十五 次 七十六 次 七十七 次 七十八 次 七十九 次 八十 次 八十一 次 八十二 次 八十三 次 八十四 次 八十五 次 八十六 次 八十七 次 八十八 次 八十九 次 九十 次 九十一 次 九十二 次 九十三 次 九十四 次 九十五 次 九十六 次 九十七 次 九十八 次 九十九 次 一百 次

考えよう！ (一) 一覧表の中の活動をしたいときは記号をえてください (二) (選んだ文書) (学習課題・学習活動) (その学習をしなくてもいい理由・やりたくない力)

5 各自の計画にしたがっての学習活動(三時間) 各自の課題、目標を一覧表にして全員に配布し、同じような課題を選んでいる仲間との情報交換がしやすいようにする。

教師側で、意図的に相談させたり教え合いの場面を設定したりする。

教師は、四十人もの生徒の多様な学習をみとめるのであるから、生徒の活動、疑問、つまづきに対して効率よくみとる工夫が必要である。そこで、黒板に模造紙で伝言板を作り、困ったことなどがあれば、付箋に書いてはり付けるように指示する。個々の生徒にあたったときも、「その問題は、掲示板にはっておくといいいね」など助言をするようにすれば、あとで、その掲示板が生徒の学習活動のメモとなつて残る。

毎時間の生徒の学習記録と合わせて用いれば、個々の生徒の学習活動、問題意識をみとめることが容易になる。

6 分科会、または出店方式による発表会(一時間) 学習の成果の発表場面、交流場面も、限られた時間の中であるだけに工夫が必要である。ここでは、分科会方式と出店方式の二つの方法を提案する。

分科会方式

同じ作品、関連する課題を選んだ生徒同士を教師がグループینگし、共通のテーマで意見交換をしたり、自分の追求を発表したりする形式である。

出店方式

教室の机を廊下に出し、発表者席を壁面に沿って六か

▲学習課題一覧例「少年の日の思い出」

【コース別学習 課題・学習活動を考えよう！】

いよいよコース別学習に入ります。自分の今ある力やつけたい力を考え、このプリントを参考にして、課題や活動を考えましょう。

	「少年の日の思い出」で学習したい！	
	苦手なところを克服したい	今ある力をさらに伸ばしたい
話す力をもっとつけたい人へ	A あらすじを小学校3年生の弟に話して聞かせよう。 B 好きな場面を選んで、目の不自由なお年寄りに読んで聞かせよう。	C 「Eメールの僕に対する態度は当然か、ひどいことか」で討論しよう。 D 僕とEメールの会話の部分を演じてみよう。
文章を書く力をもっとつけたい人へ	E 800字以内で「僕」または「Eメール」に手紙を書いてみよう。 F 好きな場面を原稿用紙に写してみよう。	G 自分の体験や意見を交えた1200字から1600字程度の感想文を書いてみよう。 H この物語の続きを書いてみよう。
文章を読む力をもっとつけたい人へ	I 「僕」の気持ちの変化を表にまとめよう。 J 「僕」と「Eメール」を比較して、「僕」の「Eメール」に対する気持ちを整理しよう。 K すらすら音読できるようになろう！	L 「僕」の心情の変化をまとめ、「ちょう」をつぶしたときの僕の気持ちをまとめよう。 M なぜ、大人になった「僕」が「少年の日の思い出」を語ったのか考えよう。 N どんな質問にも答えられるようにこの作品を分析しよう。
言葉の知識や漢字、語句の力をもっとつけたい人へ	O ここに出てくる漢字を完全に読み書きできるようにしよう。 P 漢字や語句の意味をていねいに調べよう。	Q なぜ、作者は「情熱」ではなく、「熱情」という言葉を使ったかを考えよう。 R 気持ちや性格などを表す語句を調べ、使い方を比較しよう。

もっともっと、いろんな学習が考えられますよ。「こんな力をつけたい!」「こんな学習をしてみたい!」という人は、どんどん相談に来てくださいね!

所程度設ける。発表時間は一人五分として、各自興味のある発表に参加する。同じ時間帯の発表には参加できないが、自分の関心のある発表を五つくらい聞くことができる。事前に、それぞれの発表内容の要点を一覧表にして配布し、自分の聞きたい発表を決めておくことよ。

7 授業を閉じる場面 次年度の国語の授業につながるまとめの活動

今回の学習の成果(自分自身の活動の成果、仲間の発表から学んだこと)や一年間の国語の授業でついた力を確かめ、二年生では、どんな力をつけていきたいかなどをまとめる。そのときに、仲間の発表から学んだことや仲間の成長についてのコメントもまとめ、互いの成長を確認し合えるようにしたい。その際、教師も、簡単にいいから、個々の生徒について今回の学習活動と、その成果、一年間の成長について語りかけるようにしたい。

最後に、それぞれの作品について、より深い解釈や、さらに読み深めていくための課題などを生徒に投げかけるようにしたい。春休みに自分で課題に取り組み意欲的な生徒も出てくる。

教師は、生徒の学びを認め、尊重することは当然であるが、同時に、一歩先を示唆したり、生徒の目指すべき目標となつたりすることの大切さも忘れてはならない。